

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

NO.50
2003・春号

まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



想い、つないで…『まなこ』12年の歩み

歴代4人の編集長が思い出を振り返ります。

対談 自然な形でいられたら…

まなこレポーター秋沢和宏さん・池見美貴子さんが登場です。

かかあ天下の風ふく吉祥寺

郷土史研究家の宮崎 勇さんにお話を伺いました。

まなこ

2003
NO.
50

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌『まなこ』第50号 企画・発行 武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当

レポーター会議から



1月16日(木)10:00~12:00 市役所604会議室で

●「男女平等」って？

- ・平等は当たり前なのに敢えて使うと不自然。
- ・幼稚園で働いていたが、保母から保育士という言葉に変わり、男性も増えてきた。
- ・電車の中で「オレが」「オレが」という女子高生がいた。男兄弟の中で育ち、「私」には違和感があった。今の時代だったらどんなにか幸せだっただろう。
- ・後ろから見ても男女の区別はつかない。いや、前から見てもだ。
- ・みんなが協力しながら創っていく「協創」という言葉が良い。



結婚、離婚、子育て、仕事そして介護と、いつもの暮らしの中で「なぜか生きづらい」「ちょっと息苦しい」と感じることはありませんか？それが女性問題であり男性問題。解決のヒントがほしいとき、支え合う仲間に出会いたいとき、センターに来てください。ホームページを開いてください。きっと、あなたの助けになります。

- 会議室では・・・「わらべ歌の会」や「ライター講座」など、いろいろな活動が。新規グループのご利用もお待ちしております。
- 交流・情報コーナー・・・本やビデオの貸出もご利用ください。コピー、印刷機があります。お子さんのためのプレイスペースも。

武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2階
TEL・FAX 0422 (37) 3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp
URL http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc

STAFF

レポーター	秋沢和宏・池見美貴子 糸井 守・植田裕子 大口浩美・長内レエ 梶井美香・菊地一郎 岸 文子・栗原恵子 桑原照子・小林庸子 小日向三恵子・柴 伸子 藤間みゆき・水上紘子 宮本涼子・渡邊大輔 森 治美(編集長) 新井利恵子・尾花雅子 加藤和子・藤井美里 星 詩子
取材・編集	小井戸厚子 本田 倫 横河グラフィックアーツ株式会社
デザイン 表紙イラスト 印刷	小井戸厚子 本田 倫 横河グラフィックアーツ株式会社

★今年、大きな第一歩を踏み出した熟年新人です。足の長さが足りなくて、まだまだ大変です。周りの人達に助けていただきながら、しっかりと歩けるようになりたいと思います。(尾花雅子)

★今回、武蔵野の歴史に触れることができ、とても興味深かった。生い立ちを知ることでも「便利でおしゃれな街」も深い色合いを帯びて見える。それにしても昔の人はよく歩いたものだなあと感心。(加藤和子)

★次々と好記録を出す女性アスリート達。ひと昔前は「マラソン」男性のスポーツ、でも今や「もつと長距離なら身体能力で女性のほうが有利かも」とか。性差も考え方も、時代の流れで変わる？(藤井美里)

★新聞広告のアンケートの職業欄に「専業主婦(夫)」の文字を発見。時代は少しずつでも変わっていることを実感。でも娘が「専業主夫と結婚する」なんて言ったら、きつと慌てるんだろうな。(星 詩子)

★一つの考えにとらわれず、素直に耳を傾けると新しい世界の広がることもある。たくさんの人達の意見を取り入れて、50号が完成しました。新しい時代の『まなこ』のスタートです。(森 治美)

★今号からデザイン、イラストを担当します。親しまれる『まなこ』を目指し、はります。親しまれる『まなこ』を目指し、はります。(小井戸厚子・本田 倫)

編集後記

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、各コミュニティセンター、市内の医療機関、美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなどに置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動センター男女共同参画担当まで。

2003年3月31日発行 〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28 TEL0422 (60) 1869 (ダイヤル・イン)

100

まなこは再生紙を使用しています。



●第1号〜10号編集長
小宮 蓉子
ようこ



●第11号〜30号編集長
小池 牧子
まきこ

想い、つないで……『まなこ』12年の歩み

50号
記念特集

この3月、『まなこ』は50号の誕生日を迎えました。
男女共同参加のまちづくりを目指して、創刊号が発行されたのが1991年。
それから12年、4人の編集長はどんな想いで『まなこ』をつないでいったのでしょうか。その想いを書いてもらいました。



第50号の刊行、おめでとうございます。
今から13年前、女性の情報誌を発行するための会議に誘われて出席しました。そこで数ある誌名候補の中から、「女性問題を解決するために、大きく目を見開いて人やまちや文化や地球をみよう」という意味を込めて、『まなこ』に決まりました。

それから当時児童婦人室長だった中野さんを中心に数少ない編集スタッフが、8ページの紙面づくりに取りかかりました。真っ白からのスタートなので、特集やコラムなどいろいろな意見を出し合って決め、暖かい手作り風を心がけました。児童書や単行本の編集者だった私は、いつの間にか『まなこ』のとりこになって自転車で市内を走り回っていました。



スタッフはオープン編集室を最初に訪れた方を大歓声と拍手で迎えました。多くの人達の温かいまなざしに支えられて号を重ね、記事も安定していき、『まなこ』（「なまこ」と冷やかされることも）の名前も浸透していききました。
一生懸命走りぬけた2年間でした。



市民を対象にライター養成講座が創設された。市民参加型の『まなこ』に修了生を受け入れ、講座は基礎編、『まなこ』は実践編となった。私は編集のまとめ役である『まなこオープン編集室』の看板を下げた部屋には、20代〜60代の男女が次々とやってきた。平均15人のスタッフ。特集テーマが決まると、町に出て取材をし、持ち帰った材料（ネタ）を発表する。たとえば「嫁」というテーマ。家族や社会常識の中にある差別の構造が、話を広げたり深めたりするうちに、はつきりしてくる。「おしゃべり会」の次は作文である。しゃべる時の勢いはどこへ？文章となると空中分解してしまう。徹夜まで出した「力作」は、みんなから徹底的に叩かれる。訓練にはもってこいの場だが、涙を流す者もいた。
週一度の編集室。赤ちゃんはかたわらで昼寝。会議中そとと抜け出し、幼稚園から子ども連れで戻ってくる仲間も3〜4人いたから、にぎやかだった。この経験を後に自己実現につなげた人も何人かいる。

レポーター制度を取り入れて



●第31号〜38号編集長
岩崎 みどり

それまで培われてきた市民参加の編集をより広げ、多くの人に参加してもらうと、31号からレポーター制度を取り入れました。毎号テーマについてのアンケートとレポーター会議の出席が基本ですが、さらに取材を行ったり



原稿を寄せたりと、各人ができる範囲で活動に参加する仕組みです。20代から70代までの幅広い年齢層の人達が集まり、「年代が違う人と話すのは刺激になる」という年輩の方や大学生、育児休暇中に地域にかかわりたいという人もいたり、パートなどで働いている人の参加も増えました。レポーター会議は、立場の違う人達が、それぞれの思いを話し、互いの意見を聞く場でした。

こうして集まった意見や情報をもとに、編集スタッフは積極的に取材に出かけました。取材は、まさに様々な意見を見聞きし、いろいろな方向から物事を考える作業です。この「いろいろな方向から物事を考える」が『まなこ』を編集する基本姿勢でした。



「まなこ」に期待すること！



●第39号〜46号編集長
向井 一江

「男より女のほうがずっと強くなっちゃって、さらに女の権利を認めたら日本の男は居場所がなくなるんじゃないの」とつぶやく男達がいる。確かに今の日本の女性は、世界からみて恵まれているかもしれない。しかし、これ以上男女平等を叫ぶ必要はないという彼らの言い分は当たっていない。
日本の歴史を振り返ってみると、女達に生き易い道を先駆けて示した平塚雷鳥、市川房枝、加藤シヅエ、現役の緒方貞子……などパイオニアの努力と、そこに共鳴し参画し、情熱をもって行動する大勢の人達がいたからこそ、私達の「今」がある。声をあげ、国を動かし、制度を変えてきた結果の、これは賜物なのだ。



私が『まなこ』を預かった前年の6月、男女共同参画社会基本法が施行された。7条には国際社会と協調して問題に取り組むことが明記されている。日本でも、ドメスティック・バイオレンスやストーカー殺人などの重大な人権侵害が後を絶たない。これからは、女性が「自ら生きていくための力を身につけること」なくして男女共同参画社会はありえないだろう。

『まなこ』は国際的な視野をもち、新時代のパイオニアとして男女共生の「声」を、おそらずに発信していったほしい。

現編集長から

現在の編集スタッフは、ほとんどがレポーターの出身。そこで、一緒に取材に出かけたり、フリートークの懇親会を設けたり、スタッフとレポーターがともに学び、楽しみながらの誌面作りを心がけています。
屋間のレポーター会議に出席できないメンバーを中心に、メールでのやりとりも活発に行われています。（森 治美）

▶ 5ページのレポーター募集をご参照ください。



「食べ放題で男だけ高いのは変だね」
「公園デビューっていう言い方もすごくとらわれてる」
——社会の意識はまだだと語るふたり。

池見 自分でも何でも決めることの出来る男性が少なくなってきたのでは。どこ行きたい？何食べたい？とか、私の気持ちを尊重しているようで、実は自分の意見がないの。反対されて傷つくのが嫌だから、自分では決めたくないのかも。
秋沢 あるかもしれない。そういうこと。
池見 ただ、私の気持ちを見無視して強引に引っ張って行かれたら、付き合うのやめるかもしれないけど（笑）。
秋沢 男はそれが怖いんだ、きつと（笑）。だから、なかなか意見を主

男性の方が会費が高いよね。
秋沢 それは納得できないな。スポーツ仲間の女友達なんか男よりたくさん食べる人もいる（笑）。女性は食べないから安いという概念はまったく覆されてしまう。
結婚したら子どもを産むのが当然という考え方には抵抗がある。結婚はこつあるべきと言われるのは窮屈だね。
秋沢 籍を入れるとか形式にこだわ

秋沢 産休と育休を取って子育てしている友達の夫は、絵を描くことに専念するため、最近勤めをやめた。産休や育休の制度が保障されているなら、こういう夫婦の形も面白いと思う。
池見 でも、主夫になりたいという男性を女性が受け入れられるかだね。男女平等には反しちゃうかもしれないけど（笑）。バリバリ働いている女性は、男性にもバリバリ働

張できないとか。
池見 今の女の子でも、相手に強引に引っ張って行ってもらいたいという子もいる。私はあなたに付いて行きますというタイプ。
秋沢 一昔前は、そういうカップルが多かったんだよね。男の方が自分勝手、全然、女の人の話を聞かない。
池見 それは性格的な問題なのかな？それとも、男だからリードしていかなくてはならないと思っただのかな？
秋沢 それこそ女の人は平等だと思っ

まなこレポーター募集中
『まなこ』の誌面づくりに、意見交換や、アンケート回答などが『まなこ』レポーターです。
・任期は1年間
…H16年3月31日まで
・申込は4月10日まで
詳細は市民活動センターへ
電話 0422 (60) 1869

50号
記念特集

対談「自然な形でいられたら…」

レポーター 秋沢 和宏 VS レポーター 池見 美貴子

男女雇用機会均等法が出来た1985年、まだ小学生だった二人。そんな二人が、若い世代の女と男の本音を語ってくれました。彼らの意識の中で、もう男女平等なんて古い言葉なのでしょうか。



● 秋沢 和宏 あきざわかずひろ

1974年生まれ 28歳
編集関係の仕事のかたわら、
NGOでボランティア活動も。
趣味はトライアスロン。

池見 自分でも何でも決めることの出来る男性が少なくなってきたのでは。どこ行きたい？何食べたい？とか、私の気持ちを尊重しているようで、実は自分の意見がないの。反対されて傷つくのが嫌だから、自分では決めたくないのかも。
秋沢 あるかもしれない。そういうこと。
池見 ただ、私の気持ちを見無視して強引に引っ張って行かれたら、付き合うのやめるかもしれないけど（笑）。
秋沢 男はそれが怖いんだ、きつと（笑）。だから、なかなか意見を主

池見 今の子でも、相手に強引に引っ張って行ってもらいたいという子もいる。私はあなたに付いて行きますというタイプ。
秋沢 一昔前は、そういうカップルが多かったんだよね。男の方が自分勝手、全然、女の人の話を聞かない。
池見 それは性格的な問題なのかな？それとも、男だからリードしていかなくてはならないと思っただのかな？
秋沢 それこそ女の人は平等だと思っ



● 池見 美貴子 いけみみきこ

1977年生まれ 25歳
学生時代からボランティアグループのリーダーとして活躍。市民協会の策定委員も務める。趣味は温泉旅行。

池見 私も働き相手も働き、収入は全部私にくれるのがいいなあ：冗談だけど（笑）。
でも、実家で暮らしていると生活するのにどの位かかるかわからない。きちんと把握している人なら、男性が金銭管理をしてもいいと思う。
秋沢 ぼくは一人暮らしだから、わかっていないとやっていけない。妻に家計を任せきりっていうのは、お金の面で自立していないということ。男と女では金銭感覚も違うよね。中には、お金を出すことに価値を見出している男もいると思うけど。
池見 今でも、パーティー形式だと

秋沢 確かにね。でも逆に考えれば、女性の方がいろいろ考える機会が多いんじゃないかな。10年位の間に就職、結婚、出産を迎えるわけだし。だから、今の内にやりたいことをやっておこうという気持ちが働いて、いつも元気でいられるんじゃないかな。男は、そこまで考えないと思う。結婚しても子どもが産まれてもリセットするところがない。
法律の面では、男女は平等のはず。問題なのは意識の面だと思っただけ。
秋沢 ボランティアをしているNGOでも、活動しているのは女性が多い。彼女達を見てみると、今さら男女平等なんて一歩も二歩も遅れているな。男女平等は当たり前。その上で一人ひとりの人間が大切にされなければ。結局は、人権の問題に到達するのではないかと思う。
池見 さすがに男の方が女より偉いんだぞと公言する人はいないと思うけど、意識の面ではまだまだ。例えば、平日の昼間、父親が子どもを公園に連れて来ていたら「奥さんはどうしたの？」と言われるだろうし、公園デビューなんて言葉も母親が育児をするという前提で作られたものでしょ。
秋沢 法律の面ではほとんど平等に近くなっていると思うけど、意識と

1 「男女平等」という言葉にどんな印象をもっていますか？

- ・男女平等という言葉自体が、不平等の存在を前提としている。……………女39歳
- ・均等法もろもろ、スタート地点にいたはずなのに、気づくとやっぱり平等じゃない！……………女40歳
- ・今後は個人の能力・個性が重要視され、男女平等という言葉は死語になっていくのでは。……………女40代
- ・ことさらに平等といわれると、意識してしまう。「同等」のほうがまだまし。……………女71歳
- ・性別にかかわらず何らかの形で皆助け合って生きているはず。大切なのは感謝の気持ち。……………男19歳
- ・男女平等より「男女共有」がふさわしい。……………男20代
- ・男女が補い合い認め合うことが必要。何もかも同じであるべきという考えには抵抗感がある。……………男60代

2 パートナーとの間に金銭的ルールがありますか？



- ・夫の給料から必要な額を「預かって」使っている。……………女38歳
- ・夫は大まかに考え、私は日々の使い方を工夫する。……………女40代
- ・夫の給料を全額手渡してもらい、必要な分をその都度、夫に渡す。……………女51歳
- ・できればルールを設けたかったが…。……………女71歳
- ・基本的には割り勘。特別な日には、おごったりおごられたり。……………男19歳
- ・「自分が養っている」という雰囲気は出したくない。……………男49歳
- ・ほとんどパートナーに一任。……………男56歳

3 男女を問わず容姿を気にする傾向について、どう思いますか？

- ・過剰な思いこみは別として、自分磨きという面では良いこと。……………女25歳
- ・きれいなものを見て、嫌な気はしないが、度が過ぎるとその人らしさがなくなる。……………女39歳
- ・「きれい」と対極にあるものを排除する傾向がひそんでいるようで、少し怖い。……………女40代
- ・テレビや雑誌の影響で、自分を見失っている時代の反映でしょうか。……………女48歳
- ・容姿以前に、姿勢や歩き方を気にした方がいいのでは？と感じることも。……………女50代
- ・その人の持ち味が出ればいい。……………男18歳
- ・もう外見を売り物にするしかなかった、という傾向のあらわれ。……………男70代

4 言われて嬉しいことば、嫌なことばを教えて！

嬉しいことば

- 女性…素敵・やさたね・なかなかやるね・若く見える・頭がいい
- 男性…カッコいい・頼れる・面白い・頭の回転が速い・「ありがとう」

嫌なことば

- 女性…太ったね・女のくせに・「…ちゃんママ」・趣味が悪い・口を出すな
- 男性…そんなこともできないのか・キモチ悪い・男のくせに・独断的・頭が薄くなった

まなこ
昔がたり

かかあ天下の風ふく吉祥寺

吉祥寺東町 宮崎 勇 (85歳)

「東京から文化が来てからですね。いわゆる男女平等の説が始まったのは」と語るのは、郷土史研究家として活躍の宮崎さんだ。

有名な振袖火事（明暦三年の江戸大火）を機に、ご先祖が「駒込の吉祥寺から新田開発に移殖させられて」以来、何代にも渡りこの地に住む農村だった当時、畑仕事は一家総出

であたり、そこに男女の別はなかった。ただ、娘を嫁に出すとき土地を分けて持たせたり、周囲は比較的豊かな農家が多かったようだ。次男、三男の婿入りもよくあることで、かかあ天下につながっていくことになる。

特産品である吉祥寺うどは市場でも有名で、「両親は作ったうどを乗せた荷車を押しながら、御徒町の市場まで売りに行ったものです。もっともおふくろは、途中まで、荻窪駅から汽車に乗って帰ってきちゃいましたけどね」

関東大震災以降、「東京への距離感がちょうど良かった」武蔵野へ、東京から多くの人達が文化と共に入り、住宅都市として発展していく。

「昔から武蔵野には、新しいものを受け入れるおおらかな気風がありましたね」

宮崎さんは「吉祥寺原人」である一方、語学に長けた国際人でもある。

●宮崎 勇さんの著書●

「べえべえことば考」
「数が語りかける武蔵野の歴史」
「こぼれ話にみる武蔵野の歴史」

図書館でも読めます。



ジェンダーフリー

男は寝たふり

男女平等も軽妙に詠まれてしまった。(文 加藤和子)

『まなこ』50号までの歩み

★武蔵野市の男女共同参画施策

一九八五	『男女雇用機会均等法』成立 (翌年施行)
一九八七 (平成元年)	中学・高校の家庭科 男女必修 (共修)の導入確定
一九八九	★『児童婦人部児童婦人室婦人問題担当』設置
一九九〇	★第1回『男女共同参加市民のつどい』開催
一九九一	★『武蔵野市女性行動計画』策定 男性も対象の『育児休業法』成立 (翌年施行)
一九九二	★第1回『女性学講座』開催 ★『まなこ』第1号創刊 特集・男女共同参加のまちづくり
一九九三	★『女性行動計画推進市民会議』発足 ★『パートタイム労働法』施行 国連『女性に対する暴力撤廃宣言』採択
一九九四	★第1回『トーク&シネマ』開催 向井千秋さん宇宙へ 阪神淡路大震災
一九九六	男女共同参画審議会『男女共同参画ビジョン』答申
一九九七	『男女雇用機会均等法』改正法案成立 (九九年施行)
一九九八	★武蔵野市第二次女性行動計画策定 ★『むさしのヒューマン・ネットワークセンター』開設
一九九九	『男女共同参画社会基本法』公布・施行
二〇〇〇	『ストーカー規制法』成立
二〇〇一	『ドメスティック・バイオレンス防止法』施行
二〇〇三	★『まなこ』50号発行



参考図書

『朝日クロニクル20世紀完全版第10巻』朝日新聞社
『年表 女と男の日本史』藤原書店